

こうち+クロス

高知赤十字病院
広報誌

ご自由に
お持ち帰りください



特集1:令和6年能登半島地震における救護活動報告[1月]
特集2:慢性腎臓病治療のご案内

高知赤十字病院の理念

愛され、親しまれ、信頼される病院づくりを目指します。

高知赤十字病院基本方針

- 人道・公平・中立・奉仕の赤十字基本原則を遵守します。
- チーム医療を推進し、患者様中心の安全で良質な医療を提供します。
- 高度医療の推進と救急医療の充実を図ります。
- 地域医療機関との連携を推進し、地域医療レベルの向上に努めます。
- 教育・研修の推進と次代を担う医療従事者を育成します。
- 災害時における医療救護活動への積極的な参加と支援を行います。

受診される皆様へ

私たちは、受診される皆様の権利を尊重します

- 平等かつ適切な医療を受ける権利
- 個人の人権が尊重される権利
- プライバシーが保障される権利
- セカンドオピニオンを受ける権利
- 医療上の情報及び説明を受ける権利
- 医療行為を選択する権利

私たちからのお願い

- ご自身の健康に関する詳細な情報を医師をはじめとする医療提供者にお知らせください。
- 治療や検査等は、理解し、納得したうえでお受けください。分からないこと等は、ご遠慮なく医師をはじめとする医療提供者にお問い合わせください。
- 病院内では他人の迷惑にならないようお願いいたします。
- 暴言・暴力行為があった場合、診療をお断りすることがあります。
- 医療費の支払い請求には、速やかな対応をお願いいたします。
- その他、より快適な入院生活をお過ごしいただくために、病院内の約束事についてはご協力をお願いいたします。

令和6年能登半島地震における救護活動報告「1月」

この度の災害で犠牲となられました方々のご冥福とご遺族の皆様にご静かにお悔やみ申し上げます。また、被災された皆様にお見舞いを申し上げ、一日も早い復旧・復興を心よりお祈りいたします。

当院では1月1日(月)16時10分に発生した令和6年能登半島地震(最大震度7)に関して、日本赤十字社及び厚生労働省からの要請を受けて救護・支援活動を現在も継続しておりますが、1月には以下の3チームを被災地に派遣いたしましたので、その活動をご報告します。

なお、2月以降も医療チームの派遣や心のケアスタッフ、被災地の病院支援スタッフを派遣しておりますので、次号以降で改めてご報告いたします。

出 発 式



救護班



コーディネートチーム



DMAT

活 動 報 告

DMAT

期間：1月11日(木)〜18日(木)

構成：医師1名・看護師2名・業務調整員2名
(臨床工学技士1名・理学療法士1名)

全日程、公立穴水総合病院の病院支援指揮所のリーダーチームとして活動しました。その病院の電気は通常使用が可能でしたが断水しており、手術や透析、内視鏡は不可能でした。

また、看護師をはじめ職員数も不足していたこともあり、一般外来は休止し救急外来診療のみ行い(救急搬送患者は全員DMATが対応)、さらに、病院として入院患者数を減らす方針でした。

それゆえ、もともとの入院患者で病院の選定した方、および救急外来を受診した患者で入院が必要な方を、金沢市内の病院に転院搬送するための調整が主たる業務でした。活動期間中、転院の必要な患者計40名全員を、DMAT車両、救急車、ヘリコプター等で転院搬送しました。



穴水町へ移動中の関係車両の様子



他のチームとの役割分担を確認中



チーム内で翌日の予定を確認中



日赤災害医療コーディネーターチーム

期間：1月13日(土)～18日(木)

構成：医師1名・業務調整員2名(事務1名・臨床検査技師1名)

私たちは令和6年能登半島地震において、石川県庁保健医療福祉調整本部で災害医療コーディネーターチームとして活動してきました。災害医療コーディネーターとは、日本赤十字社のもつ災害救護のリソースを、被災者・被災地へ効率的に分配し、有効活用してもらえようように調整する業務です。このような司令塔の役割がなければ、被災地での救護活動で統率が取れず逆に被災者に迷惑をかけてしまうことになってしまいます。石川県庁では、県庁職員だけでなく厚生労働省や地元医師会、自衛隊やDMATなどさまざまな業種と綿密な調整を行い、今回の派遣業務を通してコーディネーター業務の重要性を実感しました。まだまだ日赤の支援はつづきます。一日も早い現地の復興をお祈り申し上げます。



石川県支部でのブリーフィング



石川県庁保健医療福祉調整本部全体ミーティング



石川県内の日赤救護班の配置を確認する業務調整員

日赤救護班第1班

期間：1月24日(水)～29日(月)

構成：医師1名、看護師3名、薬剤師1名、
主事3名(理学療法士1名・事務2名)

大雪の悪天候の中、高知県から石川県まで車で14時間かけて金沢市に移動しました。市街地にも雪が高く積もる北陸の厳しい自然を体感しつつ、そのような中で自宅が損壊し、避難生活を余儀なくされている方々はどんなに大変な思いだろうと考えながら救護活動を行う七尾市に向かいました。発災から3週間が経過し、外傷等の方はおられず、高血圧やCOVID-19などの内科的疾患の患者さんへの対応が主でした。周辺の病院も営業しており、避難所での活動は診察や健康相談が多かった印象です。七尾市では断水が続いている場所が大半でしたが、大型の避難所である和倉小学校では、日赤国際救援部による支援で水道やシャワーの使用が可能となり、まさに日赤の力と感じました。避難生活が長くなり、避難者・支援者の疲労は蓄積され精神的にも負担が大きくなっています。救護班活動を通じて、少しでも避難者の負担が軽くなるよう、日赤や他の関連団体の力を団結し、継続的に支援することが必要と感じました。



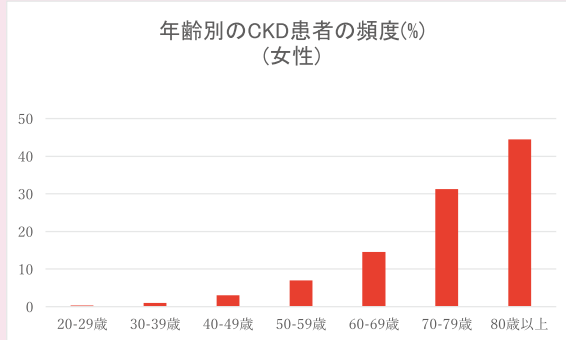
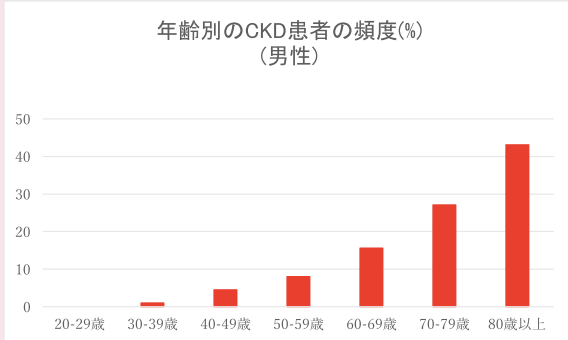
避難所の方を診察する医師と看護師



被災地の方との会話も重要な役割です



避難所の薬品を確認する薬剤師



(注) CKD 診療ガイド 2012 p11 の図 7 を一部改変

慢性腎臓病患者さんは年齢と共に数が増加します。

また腎臓は何か疾患があっても自覚症状がなかなか起こらず、症状を自覚する頃にはすでに進行しているケースが多いため沈黙の臓器と呼ばれています。

早期に診断して適切に治療を行うことでCKDの進行を抑えていくことが重要になりますが、その原因疾患を同定することが治療選択の際に大切です。腎生検はCKDの原因疾患の同定に極めて有用です。

腎生検とは

腎生検は病室でかつ局所麻酔のみでできる検査です。腎臓の一部を顕微鏡で確認することで、腎臓で何か起こっているのかを知ることが出来ます。血液検査や尿検査ではわかることに限界があるので、患者さんごとに合わせた治療を決定する上で欠かせない検査です。



当院のCKD治療の特徴

当科では薬剤師・栄養士・看護師・理学療法士なども交えた慢性腎臓病の教育入院を行っています。また、腎炎やネフローゼ症候群に対して腎生検を速やかに施行できる環境にあり、結果について全員でカンファレンスをしっかり行った上でそれぞれの患者さんに適切な治療を提供しています。

教育入院について

食事療法の他に腎機能悪化による症状軽減のための薬物療法を行います。薬剤師からは服薬指導を、また栄養士より食事指導を、理学療法士からは腎機能に応じた運動療法を行い、看護師からは医療を上手に生活に取り込むための動機づけと日常生活の変容や食事療法・薬物療法・運動療法などの自己管理について説明を行っており患者さんを中心としたチーム治療に重きをおいて治療に当たっております。



薬剤師

患者さんのお薬が、年齢や腎機能に応じた適切な用法用量となっているかどうかの確認や、服薬状況の確認および服薬指導をさせていただきます。



管理栄養士

慢性腎臓病の食事療法はオーダーメイドです。ひとりに添った食生活を支援しています。



看護師

患者さんのライフスタイルに合わせた生活指導を行います。気軽にご相談ください。



理学療法士

患者さんの身体機能や栄養状態に応じて、個別の運動療法を提供します。健康と生活の質を改善するため、全力でサポートします。

このような方は是非ご相談・ご紹介ください

尿検査で尿尿や蛋白尿を指摘された方、血液検査で腎機能障害を指摘された方は気軽にお声がけください。かかりつけの先生がいらっしゃる方は紹介状をお持ちいただくとありがたいです。

糖尿病・腎臓内科
ホームページ
詳しくはこちらから



慢性腎臓病治療のご案内



松本 秀志

坂本 敬

有井 薫

辻 和也

小松 俊哉

腎臓病スペシャリストによる診療

当科(糖尿病・腎臓内科)では、腎臓専門医2名を含む5名の医師がさまざまな腎臓病の検査や治療に当たっています。

腎臓専門医



糖尿病・腎臓内科 部長
有井 薫

慢性腎臓病には、長期的展望をもった治療が大切になります。当科では、患者さんを中心においたチーム医療をおこなっていますので、お気軽にご相談ください。



糖尿病・腎臓内科 医師
辻 和也

慢性腎臓病を治療することは脳卒中や心筋梗塞などの発症を抑制することにもつながるため、多くの病気の最前線に立っている気持ちで日々の診療に当たっております。

慢性腎臓病(CKD)とは

慢性腎臓病は国民の約8人に1人が罹患している国民病で、自覚症状がないまま進行し、透析療法を余儀なくされたり、脳卒中や心筋梗塞などの重篤な病気の引き金になったりします。そのため、慢性腎臓病を早期に発見して適切な治療を行うことが重要です。

早期発見のためには

CKDの定義は以下の通りで行います。以下の①または②あるいは両方が3か月以上持続する。

- ①尿異常が明らか 特に0.15g/gCr以上の蛋白尿(30mg/gCr以上のアルブミン尿)が重要
- ②GFR(糸球体濾過量) <60ml/分/1.73m²(日常診療では血清Cr値, 性別, 年齢から日本人のGFR推算式を用いて算出する)

よって健診による尿検査を定期的に行うこと、採血によってeGFRをチェックしていくことでCKDの早期発見は可能です。

担当医



糖尿病・腎臓内科 医師
小松 俊哉

個々の患者さんにあわせて、腎代替療法への移行をできるだけ避けられるような治療を心がけています。腎機能障害、尿検査異常などの患者さんがおられましたらお気軽にご紹介・ご相談ください。

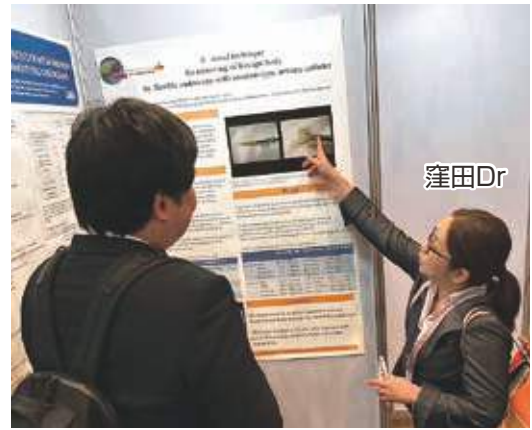
APDW2023に参加して

消化器内科医師 窪田 綾子

APDW (Asian Pacific Digestive Week アジア太平洋消化器病週間) 2023はタイのバンコクで、昨年12月6～9日に世界中からの参加のある国際学会として開催されました。

私は異物除去時に使用するデバイスについてのポスター発表を行いました。内視鏡で行う異物除去は、食道及び胃内にある、義歯など誤飲した異物を内視鏡で摘出する手技です。異物を取り出す際に問題になるのは食道には生理的狭窄部位が3か所あり、狭窄部位を通過する際に食道を傷つけ、最悪、穿孔してしまうことです。私たちは院内の倫理委員を通して、コンドーム型尿道カテーテルを切って内視鏡先端に付けることで、そのドーム状の形態内に鋭利な部分を包み込み食道を傷つけずに取り出す方法を実践しています。発表時はポスターを掲示し、一定時間その前に立つ時間があり、様々な国籍の方と話すことができました。国は違うものの、多くの人が異物をどう取り出すかで悩んでいることを知るととても良い機会となりました。

最後になりましたが、国際的な学会の審査に通過するよう英文を添削し、ご指導下さいました内多先生をはじめ、業務を変わってくださいました消化器内科、内科医師の先生方、出張費の調整など事務の方々のおかげでこのような機会を頂くことができました。本当にありがとうございました。この経験を普段の日常診療にも還元していきたいと思っております。



窪田Dr



Asian Pacific Digestive Week 2023, チュラロンコン大学ハンズオンに参加して

消化器内科医師 内多 訓久

消化器内科窪田先生が考案した採尿コンドームカテーテルを利用した安全な異物除去についてバンコクで発表を行いました。また私はチュラロンコン大学で日本では使用されていないESD (内視鏡的粘膜下層剥離術)のデバイスを使用したハンズオンに行ってきました。

日本の内視鏡医の診断・治療技術レベルは高く海外においても需要が高くなっています。チュラロンコン大学附属病院はタイでは最も影響力が高く、実際にはタイ赤十字により運営をされています。この機会を経て同じ赤十字の傘下として初めて国を越えて内視鏡医の育成につき技術交流をしたいとの依頼もありました。

このような海外出張ができるのも残って実務を引き受けてくれる若い先生方のお陰です。こういった機会を利用して、国内外での活動を広く行い、若い先生にも還元し様々な経験をしてもらい、視野を広げてもらうと共に、ひいては高知赤十字病院の発展に繋がれば幸いです。

※ハンズオン(ハンズオンセミナー)：講義だけでなく実演や操作を伴う学習形式



内多Dr



空港での災害合同訓練を経験して

糖尿病・腎臓内科医師 辻 和也

2023年11月16日に警察や自衛隊、消防隊を含めた合同訓練が高知龍馬空港であり、当院DMATとして参加させていただきました。

DMAT隊員に登録されて初の訓練で大変緊張しておりましたが、参加メンバーの力強い支えもあって緊張しながらも訓練に臨むことが出来ました。皆様、本当にありがとうございます。

訓練では、赤エリアという重症の患者さんが運ばれてくる部署の診療を担当しました。高知医療センター、近森病院、高知大学附属病院からはそれぞれ救急科の専門の先生方が参加されており、普段の内科診療とは異なるため訓練直前は、身が引き締まる思いでしたが、実際に訓練が始まるとあつという間の時間でした。

訓練を通じてよかった点や反省点などを他病院のDMAT隊員と共有出来て非常に勉強になり有意義でした。実際の災害の場で少しでも力になれるように今後も訓練に参加してスキルアップを図ってまいります。



倫理コンサルテーションチームの活動紹介

看護部(上級臨床倫理認定士) 井上 和代

急性期医療の現場では、生命に直結する治療方針の判断や、意識障害などのため意思表示の難しい患者さんの方針決定など様々な倫理的な問題があります。例えば、「もう長いこと生きたから天命を全うするのみ、治療は拒否したいという90歳代の患者さんと治療を希望する家族の間で悩む」、「人工呼吸器を外せないまま、本人がしんどい思いをしてまで長い間生きていくのはつらいと思う。呼吸器を外してほしいと家族が言ってきた」などです。このような倫理的な問題の解決においては、画一的なものではなく症例ごとに適切な対応が求められます。そんなとき、中立的な第三者として、問題点を整理し解決策について助言するのが倫理コンサルテーションチームです。

当院では、2019年より倫理コンサルテーションチームを立ち上げ、年間約20件の相談があり、チームメンバーが入り倫理カンファレンスを行い

方向づけを行っています。最近では、人生の最終段階におけるジレンマが増加しており、人生会議を推進しています。2022年からは地域住民を対象に「人生会議してみませんか?」のミニ講座と「もしバナゲーム」で自分を見つめ直す時間を作ってみんなで共有しています。

患者さんにもご家族にも「良かった」と思える活動をこれからも続けていきたいと思っております。



臨床倫理研修



倫理カンファレンス



ミニ講座

うちの
専門家

「医学物理士」を取得し

放射線治療精度の向上を目指す

「放射線治療」は、手術、抗がん剤とともにがん治療の三本柱の1つになっています。

その特徴は、①手術のように組織をとることなく、組織の機能を残したまま治療ができる。②入院を必ず必要とせずに、治療ができる。③身体的に負担が少ないなどの利点があります。

近年の放射線治療は、高精度化が進んだことで安全性や有効性が高まっています。目に見えない放射線を利用して位置に、正しい量が当たっているかを逐一確認する必要があります。

その知識と技術を持つていることを認める資格の1つに「医学物理士」があります。

医学物理士は、「放射線医学における物理的および技術的課題の解決に先進的役割を担う者」と定義されています。放射線治療での医学物理士は、放射線量の管理と校正を行うこと、放射線治療スタッフへの物理的見地からの助言を期待されています。

2023年9月に伊藤技師がその資格を取得しました。

これにより本院は医学物理士が2名になりました。放射線治療装置、放

射線治療計

画装置はたく

さんの管理項目があります。これからは、2名でより正確に管理を行うことが出来ます。

充分に管理された放射線治療装置を使って、患者さんに安心して放射線治療を受けていただけるよう、医学物理士の対する期待に答えられるよう日々精進したいと思っています。

数年後には放射線治療装置の更新もある予定なので、より高精度な放射線治療ができるように準備、研鑽を続けていきます。

患者さんに当てる放射線量が正しく出ているか確認しています。(詳細に計れます。)



これも患者さんにあてる放射線量が正しく出ているか確認する道具です(毎日計測しています)。



放射線が当たる場所を定めるパーツを取り付けています。



放射線が出る向きを変えています。



距離・位置が正しいか測定しています。



第一放射線科部
診療放射線技師
高橋 良幸

第一放射線科部
診療放射線技師
伊藤 大和

楽しく食べて長生きする

言語聴覚士はコミュニケーションや嚥下(食べること)のリハビリについての専門職です。食事は生活の中の楽しみとして誰でも身近で大切な行為だと思います。しかし、脳卒中の後遺症や加齢による筋力低下などにより食べることが障害されて起こる誤嚥性肺炎という病気があります。

私は当院へ入院となった誤嚥性肺炎患者に関わっていますが、抗生物質による治療終了後も肺炎の再発リスクが高く食事を再開できないケースを多く経験します。つまり元気なうちから誤嚥性肺炎の予防に努めることが重要です。誤嚥の兆候としては食事中にむせる、痰が絡みやすい、食事にかかる時間が長くなる、体重の減少・活動量低下などがあります。

また予防のためには口腔・全身の筋力維持のため、生活習慣の中に嚥下体操や無理のない範囲での運動を意識するようにしましょう。ぜひ身近な人達が楽しく食べて長生きできるように気にかけてあげましょう。食べることは誰でもハッピーな気分になりますよね！それぞれ自分に合った楽しみ方で食事して長生きできますように。



嚥下体操

口や舌を動かすと、唾液の出がよくなり、飲み込みやすく、食べやすくなります。食事の前準備として行いましょう。

- 姿勢**
リラックスして肩下げた姿勢をとります。
お腹に手をあてて、ゆっくり深呼吸します。
- 深呼吸**
「あーっー」
「いーっー」
- 舌の体操**
仰向け寝るを繰り返す。
舌が真につくように、ゆっくりと舌先を左右にもつむ。
舌を左右にゆっくりと1回ずつつまむ。
- 肩の体操**
両手を頭上に挙げ、左右にゆっくりと上げる。
肩をゆっくりと上げてから、肩から後ろへ、後ろから前へ、ゆっくりつまむ。
- 口の体操**
口を大きく開けたり、口を閉じて舌先を口の隅に合わせたりを繰り返す。
口をすぼめたり、噛むといった動作。
- 頬の体操**
頬をすぼめたり、すぼめたりする。
- 舌の体操**
舌をべーと出す。
舌を喉の奥の方へ引く。
口の両側をなめる。
舌の下、喉の奥をなめるようにする。
- 発音の練習**
「パピパペ」「バババウ」をゆっくり、はっきり、くり返す。
- 喉の体操**
舌を押し込めて「エヘン」と喉の奥をなめる。

リハビリテーション科

新人研修

「急変に強くなろう」

新人看護師 救命処置研修を行いました。
研修「急変に強くなろう」を30名の新人看護師と、11名の先輩看護師で行いました。
まずは先輩看護師によるBLS(1次救命処置)と、ICLS(2次救命処置)のデモンストレーションを行い、急変時対応の流れを確認した後、小グループにわかれ実技を行いました。また、昨年からはじめたRRS(ラピッドレスポンスシステム)の考え方と要請についても学びました。

感想や意見など

- 急変は夜間時に一度あったことがあります。その時は本当に何もできなかったのですが、もし次そういった場面に立ち会ったときは、前回の経験と今回の講義で学んだことを活かして対応が少しでもできるようになりたい。
- 実際に急変対応するとなると、どう動けばいいかわからなくなりそうなので、しっかり勉強しておきたい。
- 緊急時は自分ができることを率先してやるように心がけたい。



院内クリニカルパス大会の開催報告

医療情報管理課 岡村 太朗

2023年11月30日院内クリニカルパス大会を開催しました。平日の夕方にも関わらず院内から100名の参加がありました。

発表に対しての質疑応答も活発に行われました。今年度は、

- 6階東病棟 泌尿器科
- 「ロボット支援腹腔鏡下前立腺摘出術」
- 6階西病棟 整形外科
- 「大腿骨近位部骨折」
- 5階西病棟 小児科
- 「新生児血糖管理パスの作成」
- 5階東病棟 外科
- 「乳房全摘術・切除術の修正と乳房再建術パス新規作成」

の4件のパスについて医師、看護師、薬剤師、事務が発表しました。

当院では日々の診療に医療の質向上のため2001年からクリニカルパスを導入し、クリニカルパス委員会活動の一環として年1回院内クリニカルパス大会を開催しています。

クリニカルパスとは「患者状態と診療行為の目標、および評価・記録を含む標準診療計画であり、標準からの逸脱・変動（バリエーション）を分析することで医療の質を改善する手法」です。

今後も継続して院内クリニカルパス大会を開催し、医療の質の改善を行っていきます。



健康管理センターからのお知らせ

人間ドック健診施設機能評価の更新認定について

この度、健康管理センターが人間ドック健診施設機能評価の5年ごとの更新審査（新型コロナウイルスの影響で審査が1年延長となりましたが）の結果、新たなバージョン（Ver.4.0）での認定を受け、日本人間ドック学会・日本病院会より認定証が交付されました。

人間ドック健診施設機能評価とは、日本人間ドック学会が、受診者が安心して健診をうけられることを目的として、人間ドック健診施設を評価しています。

学会が定める人間ドックの質、受診者の満足・安心、施設の体制といった項目に対し、書類、訪問の第三者的評価を行い、審査項目をクリアした施設が「機能評価認定施設」となります。

当健康管理センターは、平成25年から機能評価認定施設です。今回の審査では、医師の結果説明・保健指導・フォローアップの各体制について、高い評価を受けました。

高知県の認定施設は当健康管理センターを含め、2施設のみとなります。

評価のバージョンが進むごとに施設に要求されるレベルは高くなりますが、全職員が準備に取り組むことで組織としてのレベルアップが図れたと思います。今後はバージョン5.0に向けて日常業務のさらなる改善に努めたいと思います。



大黒センター長

奥宮課長

CAFE CROSS

★ 研修医一年目のご紹介★

RESIDENT INFORMATION



みもと なおき
三本 直輝 (高知大学卒)

医師を志したきっかけは？

小さい頃からアトピーがあり、自分自身や同じような症状の患者さんを治せるようになりたいと思ったのがきっかけです。



これが好き♡

うどんやつけ麺など、油っぽくない麺類が好きです。最近は食べ過ぎを心配して、少しでも運動しようとジムに通いだしましたが、あまり長続きはしなさそうです…。



私、スゴイんです♪

中学生の時から将棋を続けていて、アマチュア五段くらいです。盤と駒がなくても頭の中で動かすことができます。



研修への意気込みをひとこと★

まだまだ未熟な私ですが、一步ずつ成長していけるように日々頑張りたいと思います。よろしくお願ひします。



もりた はるき
森田 晴樹 (高知大学卒)

医師を志したきっかけは？

私は高知県土佐市新居という、コンビニもない田舎で育ちました。周りにはご高齢の方が多く、病気で悩んでいる人が沢山いて、そういった方々の力になりたいと思ったのが医師を目指したきっかけです。



これが好き♡

みんなでわいわいするのが好きです。趣味は登山、たけのこ掘り、フェス、ラフティング、よさこいです。特に最近は登山にはまっていて、高校の担任の先生と同級生と4~5人で2ヶ月に1回ほどのペースで四国の山々を登っています。登り始めはしんどいですが、山頂で食べるカップラーメンと食後のコーヒーは格別です。



私、スゴイんです♪

我が家は代々農家で山を持っています。春になるとニョキニョキたけのこが生えてきます。それを友人と収穫し、フリマサイトで売って、売ったお金で地元の萩の茶屋というお店で焼肉と貝をお腹いっぱいまで食べるプチイベントを毎年しています。



5月、6月にも破竹、真竹といったたけのこを収穫してきます。たけのこを掘るという手技に関しては他のどの先生にも負けない自負があります！

研修への意気込みをひとこと★

あまり要領の良い方ではないので、ご迷惑をおかけすることが多々あると思いますが、一生懸命頑張りますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

地域医療連携意見交換会

令和5年11月19日、新病院移転とコロナ禍のため中断されていた地域医療連携意見交換会が6年ぶりに開催されました。当日は、地域の医療機関から医師をはじめ地域医療担当職員など、50名を超える方々のご参加をいただき盛会となりました。

会の前半では、(株)ウォームハーツの長面川さより氏より、令和6年度の診療報酬改定において地域医療連携に関連する内容につきご講演を頂きました。

今後は、地域の医療機関との関係がより一層重要になると考えられることから、来年度以降も引き続き意見交換会を開催することで顔の見える関係を築き、良好な病・病或いは病・診連携に繋げていければと考えています。



循環器内科

新しいアブレーションの解析装置3Dマッピングシステム

エンサイト エックス

『Ensite X』を 導入しました。



アブレーション治療においては、心臓内の電気の流れを解析し、治療方針の決定に役立ていきます。

このシステムは従来よりも解析の精度・スピードが向上しており、電気信号の速度や流れる方向を3次元的に把握する力に優れています。

また、患者さんの呼吸や体動によるわずかなずれを補正する機能も向上しております。

正確性・安全性・解析速度が速くなることで、患者さんへのメリットが増えることが期待できます。

2023年9月に日本脳神経血管内治療学会の専門医資格を取得しました。脳血管内治療は開頭手術とは異なり、足や腕の血管からカテーテルという細い管を挿入して治療を行います。体に負担が少ないことがメリットで、脳動脈瘤・頸動脈狭窄・脳腫瘍・急性脳動脈閉塞などの疾患に対する治療に積極的に取り組んでいます。しかし血管内治療が困難な場合もあるので、どの治療法がベストか科内で慎重に検討

日本脳神経血管内治療学会の専門医資格 を取得しました

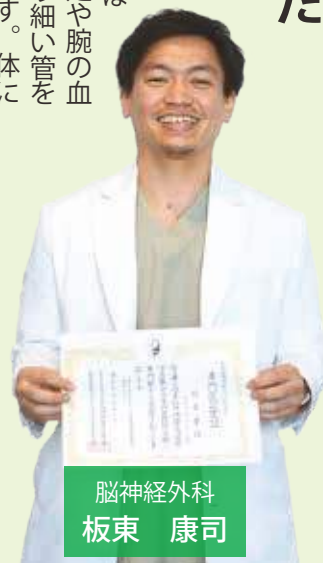
2023年9月に日本

脳神経血管内治療学会
の専門医資格を取得し
ました。脳血管内治療は

開頭手術とは異なり、足や腕の血
管からカテーテルという細い管を
挿入して治療を行います。体に

負担が少ないことがメリットで、
脳動脈瘤・頸動脈狭窄・脳腫瘍・
急性脳動脈閉塞などの疾患に対

する治療に積極的に取り組んで
います。しかし血管内治療が困
難な場合もあるので、どの治療
法がベストか科内で慎重に検討



脳神経外科
板東 康司

してから患者さんに提案するよ
うにしております。

当院には2名の専門医(松下・板東)が常駐しており、いつでも対応可能です。緊急時や先生方がお困りの際はお気軽にご相談ください。

新入職員紹介

(令和5年11月1日〜令和5年12月31日)

氏名／所属・職種／趣味・特技／抱負



前田 亜沙華
看護助手
6階東病棟

●趣味はアニメ、漫画、YouTube
みたりします。声優の中村悠一さん
のYouTube好きです。特技は
卓球です(中学3年〜高校3年の6
年間やりました)。毎日の日課:ラ
ジオ体操、起床後、愛犬(チワワ)に癒
される。

●いい看護師になりたいです。まずは
2年生に進級が無事できるように、
目の前のことを頑張ります。

高知赤十字病院
ホームページ



<https://www.kochi-med.jrc.or.jp/>

高知赤十字病院
Facebook



<https://www.facebook.com/krch.kouhou/>

よろしければ
フォロー登録
お願いします



皆さまへよりよい情報提供ができる紙面づくりを目指しております。

本誌に対するご意見やご要望などございましたら、高知赤十字病院医療事業・広報課までお寄せください。
(088-822-1201 (代表))

